

スポーツ・文化

目指す姿（10年後）

- 地域の多彩なスポーツ資源に対する県民の認知が高まり、それらを活用した地域づくりの取組が県内各地で盛んになることで、新たなにぎわいの創出や地域経済の活性化などの成果が現れ始めています。
- 多くの県民が野球やサッカーといった身近なスポーツに限らず、都市と自然の近接性という本県の強みを生かし、マリンスポーツやウィンタースポーツ、アーバンスポーツ、eスポーツといった多様なスポーツを楽しんでいます。
- スポーツを「する」だけでなく、県内のトップチームやアスリートの活躍を「みる」ことや、スポーツボランティアなどのスポーツ活動を「ささえる」輪が広がることで、県民同士の一体感が高まり、広島が新たな「スポーツ王国」として広く認知され、地域への愛着や誇りが醸成されつつあります。
- パラスポーツについて県民の認知が高まり、障害の有無や、年齢、性別を問わず、誰もが参画し、楽しむことで、スポーツが多様性を認め合うきっかけとなっています。
- 多様な文化芸術について、県民の様々なニーズに応じた、「鑑賞する」「自ら体験する」ことができる機会が充実し、多くの県民が参画しています。
- 広島を代表する文化芸術として、神楽や交響楽団などが県内外から高く評価されることで、文化芸術に対する県民の関心が高まり、親しむ人が増え、地域への愛着や誇りが醸成されつつあります。
- 地域の歴史文化に触れることができる機会が充実し、また、こうした歴史文化の情報が一元的に集約され、容易にアクセスできるなど、地域の歴史文化を知ることができる環境が整い、県民の理解が進んでいます。

ビジョン指標	当初値	現状値	目標値 (R7)	目標値 (R12)
スポーツを楽しめることを誇りに 思う県民の割合	52.4% (全国1位) (R1)※1	71.4% (R5)※2	58.7%	65%
週に1日以上スポーツ実施率	県:41.8% (国:53.6%) (R1)	53.7% (R5)	53.4%	65%
過去1年間に文化芸術活動(鑑賞・体験等)に参加した県民の割合	鑑賞活動: 48.3% 体験活動: 19.5% (R2)	鑑賞活動: 38.5% 体験活動: 16.6% (R5)	鑑賞活動: 65% 体験活動: 35%	鑑賞活動: 80% 体験活動: 50%

※1 地域ブランド調査(株式会社ブランド総合研究所)R1で調査終了。

※2 県民意識調査(県施策形成支援チーム)

主な取組

● スポーツを活用した地域活性化

- 「わがまち♥スポーツ」に取り組む市町の支援
[R2~]

● 誰もがスポーツに親しむ環境の充実

- 広島横断型スポーツ応援プロジェクト
「Team WISH」の運用開始 [R4.3]
- パラスポーツを通じた共生社会の実現
「インクルーシブ・スポーツ・フェスタ
広島」の開催 [R5~]

● スポーツ競技力の向上

- 「ひろしまスポーツアカデミー」
第1・2期生(中学生)の育成プログラムの実施
[R4.4~R6.3]
- 第3期生の選考会の実施 [R5.10]

● 文化芸術に親しむ環境の充実

- 県立美術館における多様な特別展の開催
- 広島県公立文化施設ネットワークの運営
県内の公共ホールを拠点とした
地域住民参画型モデル事業の実施[R4~5]
- 広島交響楽団などが県内12市町を巡回する
「ミュージックキャラバン」の実施[R5]
- 中四国地方の神楽が一堂に集結する
「神楽フェスティバル」の開催[R5]
- G7広島サミット等の契機を生かした
「縮景園」の魅力発信
- けんみん文化祭及び県美展の開催
- 歴史民俗資料館、歴史博物館及び頼山陽史跡資料館に
おける企画展等の開催

① スポーツを活用した地域活性化

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 本県が有する多彩なスポーツ資源を活用し、県内各地における多様な活性化の姿を生み出せるよう、広島版スポーツコミッションである「スポーツアクティベーションひろしま(SAH)」が中心となって、スポーツを活用した地域活性化に向けた戦略立案や事業実施、効果検証など、市町等における取組を支援します。
- 「スポーツアクティベーションひろしま(SAH)」において、県内におけるスポーツを活用した地域活性化に向け、知見やノウハウ、人脈を蓄積・提供するとともに、各種スポーツ団体やスポーツ関係者同士のネットワークを構築し、連携を促すことで、新たな取組が生まれやすい環境を創出します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
「わがまち♡スポーツ」※ により目指すべき姿に向け取組を実施している市町数	目標	6 市町	8 市町	10 市町	12 市町	14 市町
	実績	6 市町	8 市町	11 市町		
	達成状況	達成	達成	達成		

※スポーツの力を活用し、目指す姿の実現に向けた地域活性化の取組

【評価と課題】

- スポーツを活用した地域活性化の取組については、市町に対し人脈の形成やノウハウの提供、財政的な支援などの伴走型のサポートを行い、令和5年までに11市町が取組を実施した。
三次市でWBSC女子野球ワールドカップ予選が開催されたことをはじめ、地域のスポーツ資源を活用したイベントなどが各地で開始されている。
- 一方で、市町において、スポーツを活用した地域活性化を図るための知識やノウハウが十分に蓄積されているとは言えない状況であることから、引き続き、SAHにおいて市町に対する人的支援等を進めていく必要がある。

【主な事業】・ スポーツを活用した地域活性化推進事業……………431 ページ

【令和6年度の取組】

- アドバイザリーボードの知見や、全国での先進事例、県内での取組事例の紹介・共有を通じて、「わがまち♡スポーツ」の更なる県内展開に取り組む。
- 3年間の財政支援が終了する市町のうち、成果の定着・継続に向けた執行体制の充実等を図る必要がある市町を対象に、人的支援、財政支援を継続し、SAHとしても積極的に関与しながら成果の定着・継続を図る。

② 誰もがスポーツに親しむ環境の充実

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 県内スポーツの各種活動やスポーツ施設の予約、利用等に関する情報の一元化とウェブやSNSによる戦略的な情報発信に取り組めます。
- 県内トップチームの選手派遣などによる、学校や地域でのスポーツ教室やスポーツ体験会を実施します。
- スポーツ解説者、OB・OG・現役選手などの配置による試合実況やルールや技術・戦略の解説、トップス広島をはじめとする県内トップスポーツの観戦への誘客、満足度の向上など、県民が応援を楽しむための環境を充実させます。
- 国際規模・全国規模のパラスポーツ大会を誘致するとともに、指導者の育成や体験会の開催を通じて、パラスポーツの普及を促進します。
- ウェアラブル端末などを活用したトレーニング方法やリモート応援システムなどを活用した観戦など、スポーツとの新しい関わり方の環境整備を支援します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
スポーツを直接観戦した 県民の割合	目標	44%	45%	46%	47%	50%
	実績	23.1%	28.4%	35.6%		
	達成状況	未達成	未達成	未達成		
スポーツボランティアに 参加した県民の割合	目標	12%	14%	16%	18%	20%
	実績	7.8%	5.8%	7.1%		
	達成状況	未達成	未達成	未達成		

【評価と課題】

- 県民が全ての年代で運動・スポーツに親しむことを目指しているものの、子供だけで遊ぶことができる環境が少なくなり、熱中症やPM2.5 などの影響で、環境面でも外での遊びがしづらい状況になっている。また、高齢者の健康意識の増加に伴い 60 代以降のスポーツ実施率は向上しているものの、働く世代・子育て世代のスポーツ実施率が全世代の平均より低く、運動習慣化のきっかけづくりが必要である。
- 新型コロナの影響によるスポーツ観戦に関する制限が解除され、直接観戦した県民の割合は前年を上回ったものの、目標を下回っている。
- 広島を拠点に世界や全国で活躍する県内のスポーツチームと連携した広島横断型スポーツ応援プロジェクト「Team WISH」として、ウェブ上でのサービスや県民と選手が触れ合える場の創出などに取り組んでいるが、一部のチーム以外は広く県民に認知されていない状況が引き続き見られる。
- 障害の有無に関わらず誰もが参画し楽しめる「インクルーシブ・スポーツ・フェスタ広島 2023」(以下「フェスタ」という。)が東広島運動公園をメイン会場に初開催され、7市町 16 競技の体験会には参加者・ボランティア・観客など、約 3,000 名の参加があり、パラスポーツの普及啓発を図っている。
- フェスタや県障害者陸上競技大会等では、多くのボランティアを呼び掛け、「スポーツボランティアに参加した県民の割合」は増加したものの、周知に課題があった。今後は、(公社)広島県パラスポーツ協会が主催するボランティア研修会や指導者養成研修のほか、企業・競技団体等と連携した体験会を通して、更なるパラスポーツの普及啓発を図る必要がある。

- 【主な事業】 ・ スポーツを活用した地域活性化推進事業……………431 ページ
 ・ パラスポーツ推進事業…………… 433 ページ

【令和6年度の取組】

- 体の諸機能が著しく発達する幼児期の運動が、その後の運動実施状況にも大きな差を生むとの調査結果を踏まえ、「スポーツを通じた『遊び 学び 育つひろしまっ子！』育成事業」を実施し、幼児期の運動遊びを促進させる。また、スポーツ実施率が低迷する働く世代・子育て世代においては、「身近な公共空間を活用した運動習慣化促進事業」を実施し、手軽に運動・スポーツを楽しむことができ、運動習慣化のきっかけづくりとなる事業を実施する。
- スポーツチームの認知拡大に向け、「Team WISH」として参画する県内 25 チームの情報や試合等のデータを活用した県民参加型のコンテンツの提供や、県内トップスポーツチームと連携したイベントの開催等を通じて、県民の各チームに対する認知度を高めるとともに、競技やアスリートへの興味・関心を喚起していく。
- 今年度も「インクルーシブ・スポーツ・フェスタ広島 2024」を福山市を中心に開催予定であり、更に全県に広く浸透するよう、多様な主体と連携を図りながら取組を進めていく。

③ スポーツ競技力の向上

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 体験型スポーツプログラム等を通じた裾野の拡大を図りつつ、優れた運動能力を持つジュニア選手の早期発掘に取り組むとともに、指導力の高い優秀な指導者の養成・確保を行うなど、ジュニア選手の育成強化に取り組めます。
- スポーツ医科学的なサポートやトップアスリートの指導に加え、オンラインコーチングアプリやモーションキャプチャーなど、デジタル技術の活用による育成を図ります。
- 強化を通じて得られたデータをエビデンスとして活用し、個人に応じたトレーニング方法の導入を推進します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
国民体育大会総合成績 (天皇杯)	目標	14位	12位	11位	10位	8位
	実績	—※	26位	23位		
	達成状況		未達成	未達成		
国民体育大会成績(少年の部)	目標	23位	20位	17位	15位	14位
	実績	—※	46位	24位		
	達成状況		未達成	未達成		

※新型コロナの感染拡大を受けて大会中止

【評価と課題】

- 国民体育大会の成績は、昨年度から順位を上げて総合成績は23位、少年の部は24位となったが、依然として成績が低迷している。
- 特に少年の部の成績が低迷しており、その要因として、指導者をはじめとする競技環境が整わないことによる優秀な選手の県外流出が考えられる。このため、小学校段階での競技体験機会等の充実、中学段階での発掘・育成、高校段階での競技力強化まで、一貫した取組が必要である。
- ジュニアアスリートの発掘・育成については、ひろしまスポーツアカデミー(ホッケー、カヌー、ローイング、ボウリング)を令和4年度に立ち上げ、一部の競技に特化した育成強化を図っている。ひろしまスポーツアカデミーでは、全国大会等で入賞する等成果を上げており、今後、競技の拡大や高校段階での競技力向上拠点校との相互連携を図っていく必要がある。
- 運動が好きで、勝負にこだわって挑戦したい子供を応援し、成績上位者を育てていくことに注力してきた一方で、身体を動かすことは好きだが、好きな競技に出会えていない子供たちや、スポーツをする機会がない子供たちに向き合えていないため、競技力の意義を見直す必要がある。

【令和6年度の取組】

- 国民スポーツ大会(令和6年度から名称変更)に向けて、成年・少年の強化選手を対象に強化合宿等の強化事業を実施する。
- 競技力の意義を「スポーツを通じた夢や希望への挑戦を後押し」と再定義し、子供たち一人一人の資質や志向に応じた能力開発を目的とし、自身の適性や志向にあったスポーツの楽しみ方を発見、選択し、自身の目標に挑戦できている状態を目指すため、小学生を対象とした「個々の能力に寄り添った運動機会の提供」及び「様々なスポーツに出会う機会の提供」、中学生を対象とした「ひろしまスポーツアカデミー」及び高校生を対象とした「競技力向上拠点校事業」など、小中高の各段階での取組をつなぎ、子供たち一人一人の資質や志向に応じた挑戦への支援に取り組む。
- なかでも、中学生を対象とした「ひろしまスポーツアカデミー」の育成強化事業においては、競技力の更なる向上を目指し、対象競技を拡大し、第4期生の選考会を行う。

④ 文化芸術に親しむ環境の充実

【5年間(R3～R7)の取組の方向】

- 県立美術館において、幅広い層が楽しめる展覧会などを開催するとともに、縮景園においては、隣接の美術館との一体的運営の下、その魅力を更に引き出すイベント等を実施します。
- けんみん文化祭・県美展の内容の充実等を図るとともに、県内の文化施設の有効活用を進めるなど、県民が文化芸術活動に参加しやすくなる環境づくりを進めます。
- 文化団体等がその活動について相談でき、また、共通の課題解決に向けた関係団体での連携を推進できるプラットフォームを整備し、文化団体による活動の活性化を図ります。
- 広島神楽や広島交響楽団など広島の誇るべき文化資源が県民に対してより一層浸透するよう、それらの魅力を身近に感じられる公演機会の提供や、デジタル技術を活用した国内外に向けた情報発信などを支援します。
- 江戸時代以降の広島の歴史文化について、ゆかりの深い県立美術館等で分かりやすく発信していきます。また、県立歴史博物館等においても、幅広い地域の歴史に触れていただく企画展や出前授業等を充実します。

KPI		R3	R4	R5	R6	R7
文化芸術について関心がある県民の割合	目標	78.6%	80.2%	81.8%	83.4%	85.0%
	実績	72.3%	71.6%	68.8%		
	達成状況	未達成	未達成	未達成		
地域の歴史について知っていると感じた県民の割合	目標	16.7%	20.1%	23.5%	26.9%	30.0%
	実績	12.0%	12.2%	10.4%		
	達成状況	未達成	未達成	未達成		

【評価と課題】

- 文化芸術について関心がある県民の割合については、県立美術館と縮景園との連携展示や子供から大人まで楽しめる体験型ミュージアム(特別展)の開催のほか、「公立文化施設ネットワーク」への参画市町を全市町に拡大し、広島交響楽団などが県内 12 市町を巡回する「ミュージックキャラバン」を実施するなど、県民が文化芸術に親しむ機会の充実に努めてきた。しかしながら、文化芸術への潜在ニーズを喚起する魅力発信が十分に行えておらず、目標達成に至っていない。
- 地域の歴史について知っていると感じた県民の割合については、市町と連携した周年歴史事業の開催のほか、G7広島サミット等を契機とした「縮景園」の魅力発信や、「中四国神楽フェスティバル」の実施、県立博物館等における展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」の解説資料の範囲の拡充など、地域の歴史文化の理解促進に向けた機会の充実に努めてきた。しかしながら、興味はあるが、行動に移していない人や関心が高くない層など、広く県民への働きかけが十分に行えておらず、目標達成には至っていない。

【主な事業】・地域文化拠点強化事業……………438 ページ

【令和6年度の取組】

- 県民の身近な市町での魅力的な文化芸術イベントを充実し、文化芸術への潜在ニーズを喚起する魅力発信を行うため、「広島県公立文化施設ネットワーク」を活用して、県外の優良事例を学ぶ勉強会を開催するなど、各市町における文化芸術事業の企画・運営能力の向上を支援する。
- 広島県の歴史文化を主体的に学ぶ意欲のある学習者のニーズに応えるために、自宅からでもオンラインで学習できるよう、県立博物館等におけるデジタルコンテンツを充実させるとともに、県民の歴史文化に対する興味・関心を高め、地域の歴史に対する学習活動につながるよう、地域密着型の展示・体験活動を実施する。